静岡市城北公園再整備 懇談会
【第2回】

2025.03.12

前回の振り返りと本日の進め方

場づくりのためのルール

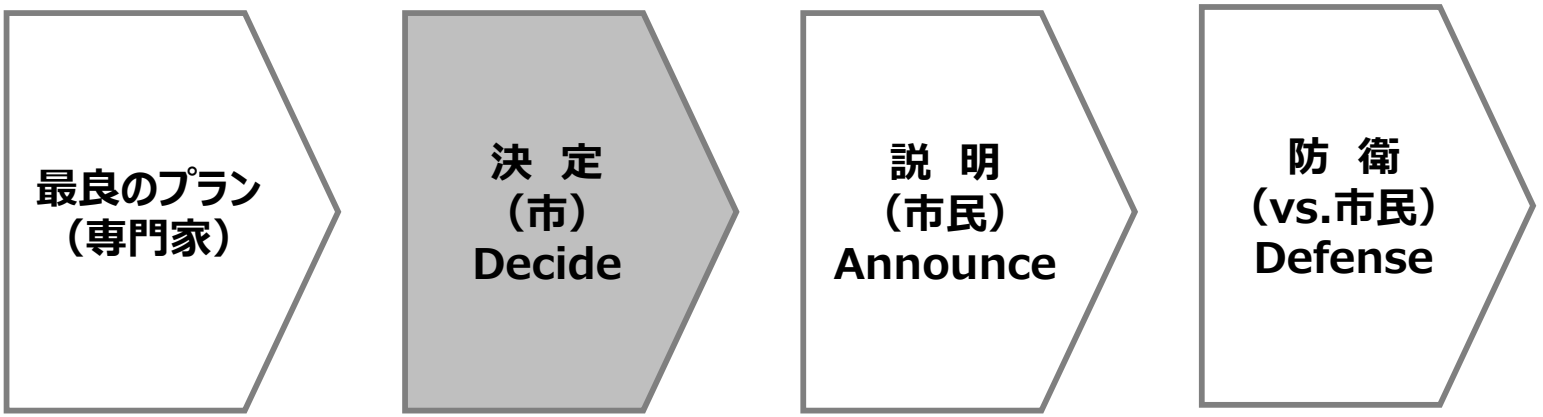
誰もが安心して発言できる雰囲気を作りましょう。

1. 1人ひとりの発言を尊重する
2. 発言時間を守る
3. 相互理解の促進
4. お互いの立場を尊重する
5. 対話を重視する
6. 結論を急がない

結論を出すことよりも、プロセスを重視しながら、
得られた意見を今後の計画の参考にできる形に整理する

楽しく有意義な懇談会にしていきましょう！

これまでの公共事業の進め方

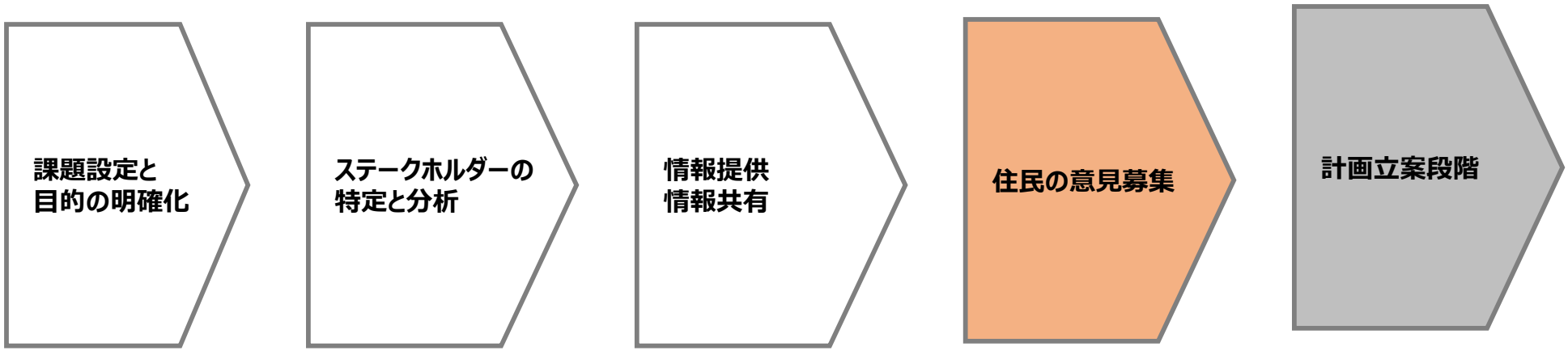


信頼･共感･協働…？

市民参加型の公共事業の進め方

市民参画の目的

住民やステークホルダーが公共事業の意思決定過程に関与し、
その過程を通じて課題や選択肢を共有し、より良い計画を策定すること。



ニーズとウォンツの把握を重視

ニーズ（Needs）
基本的な期待や問題解決の要請
地域社会や公共事業にとっての本質的な必要性
現実的かつ社会的問題を解決するための客観的な必要条件

ウォンツ（Wants）
ニーズを前提に、具体的な方法や希望条件として提示される要求や選好
社会全体や関係者個々の希望として提示される解決策・手段

懇談会の進め方（全4回）

公園で、〇〇をするためには、

〇〇が必要だ。

カフェ

第1回　ニーズ

拡散（現在）

- できるだけたくさん
- ニーズの整理
- ウォンツの整理
- どういう公園にしたいか

第2回　コード

収束（未来）

- 場のコード（性格）
- ターゲティング
- 公園で何がしたいか
- 何をするための公園か
- 持続可能性

第3回　デザイン

デザイン
(ハード･ソフト)

- ハードデザインへの落とし込み
- ソフトデザインルールづくり
- 協働できること

第4回　提言

言語化

- 提言のまとめ
- 今後のフィードバックの確認

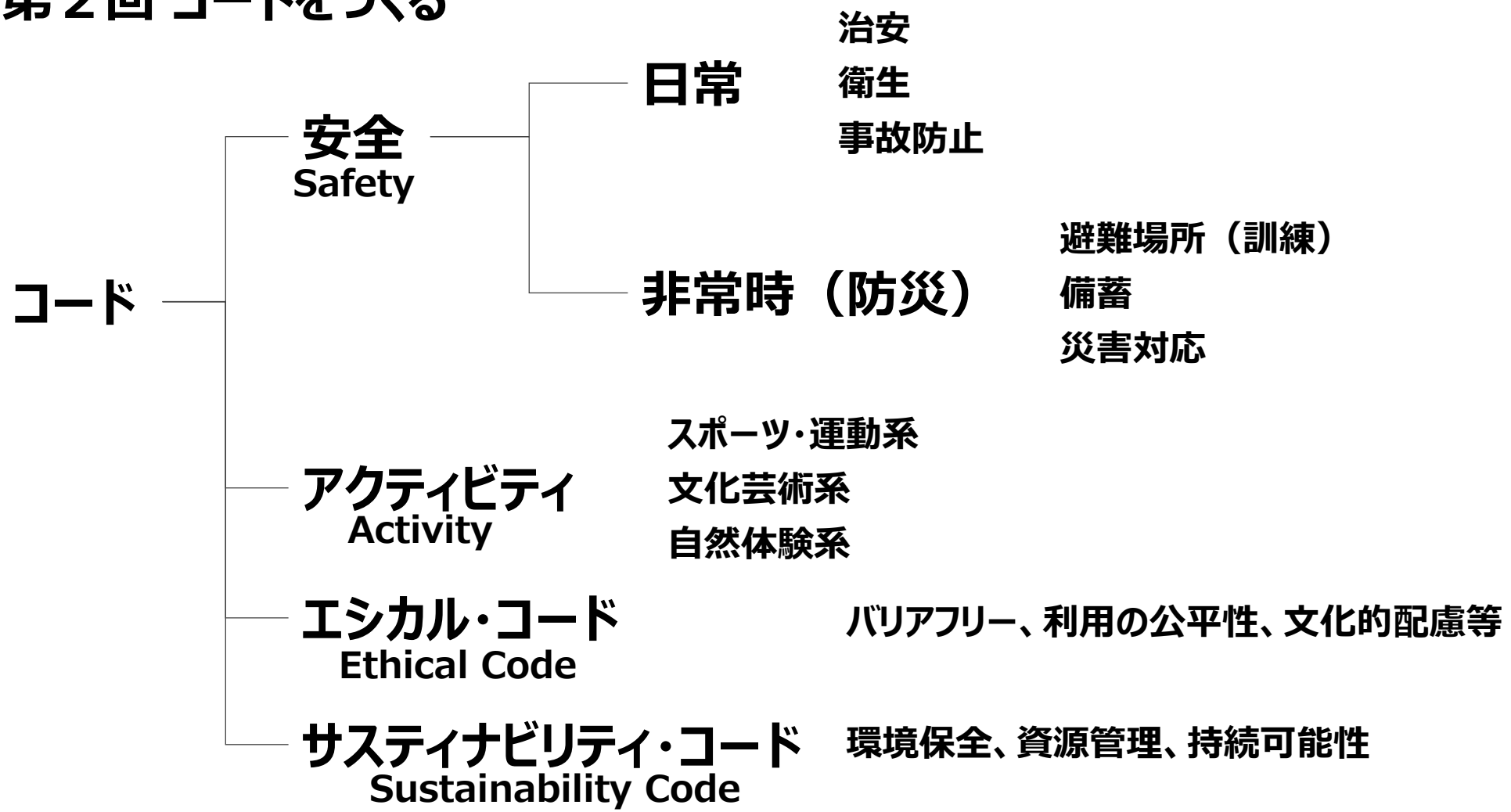
コード化

公園に求める要素に対する具体的なルールや基準を設定すること。

前回出たニーズを整理し、『誰が・何ができる公園にしたいか』という形でまとめます。

漏れなくダブりなく」
MECE（Mutually Exclusive, Collectively Exhaustive）

第２回 コードをつくる


コード
安全
Safety
日常
治安
衛生
事故防止
非常時（防災）
避難場所（訓練）
備蓄
災害対応
アクティビティ
Activity
スポーツ･運動系
文化芸術系
自然体験系
エシカル･コード
Ethical Code
バリアフリー、利用の公平性、文化的配慮等
サスティナビリティ･コード
Sustainability Code
環境保全、資源管理、持続可能性

ハザード

××を■ ■して安全な公園にしたい。

安全
Safety

ペルソナ

〇〇が▲▲できる公園にしたい。

アクティビティ

アクティビティ
Activity

デザイン化

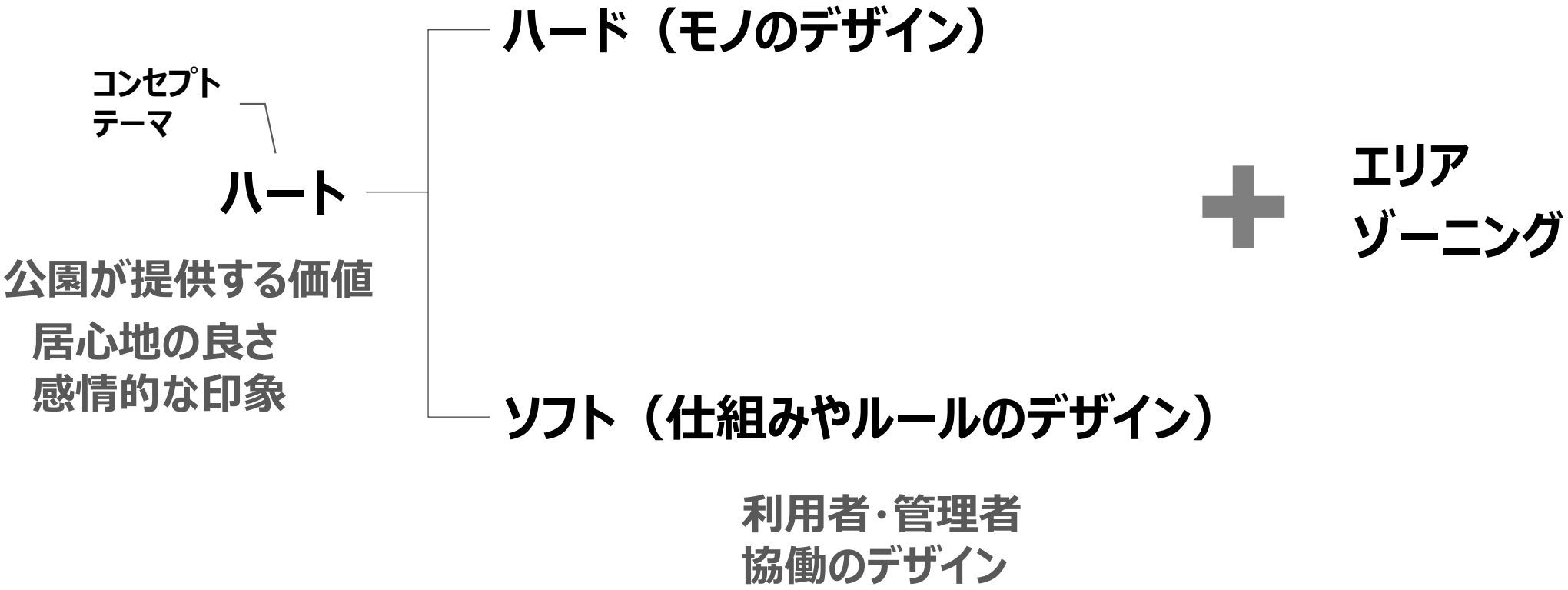
整理したコードをもとに、実際の公園の空間の設計を行うプロセス。

整理したコードをもとに、公園に必要なもの（ハード面）や活動（ソフト面）を考え、それぞれの配置を決めていきます。

コンセプトとテーマ：　再整備の全体的な方向性を決定するために、
明確なコンセプトやテーマを設定します。

ゾーニング：　計画されたエリアの用途や機能を整理し、適切に配置します。

第３回 デザインする



デザイン：　解決策

第1回のまとめ

	negative		positive		
	危険 hazard	コンテンツ contents	活動 activity	価値 value	周辺環境 surrounding environment
現状	防災　防犯 倒れそうな樹木 視界を遮る茂み 交通事故	自然：　樹木・日本庭園 広場：　芝生広場、水辺 生き物：　昆虫、カルガモ 図書館： 風景：　富士山、ケヤキ並木 季節：　紅葉、桜並木、なんじゃもんじゃの木 施設：　東屋 周辺歩道	マルシェ、体験イベント サッカー、水遊び 生き物観察、虫取り グランドゴルフ、運動会 子どもと遊ぶ、写真撮影 花見、コンサート リラックス ウォーキング、ジョギング 犬と散歩、ラジオ体操	**直接的な価値（利用価値）** 経済的価値 社会的価値 環境的価値 **間接的な価値（非利用価値）** 存在価値 （存在そのものが生む価値） 愛着 想い出	和菓子屋さん パン屋さん 児童館 図書館 パーキング 週末路上パーキング アクセス（バイパス） 住宅街 歴史的遺産
未来	災害時のトイレ 災害時のテント バリアーフリー 年齢別のゾーニング **サスティナビリティ** **維持管理**	ダイナミックな遊具 意地悪じゃないベンチ 洋式トイレ　駐車場 キッチンカー　カフェ もっと大きな芝生広場 ライトアップ 雨除けの屋根		**間接的な価値（非利用価値）** 継承価値 （将来世代のための価値） オプション価値 （将来の利用可能性の価値） インクルーシブ 夜の公園 パブリックコミュニティ 自由な公園の使い方 **都市への広がり** **静岡市の魅力アップ**	

制約と要件の整理

パークPFI について

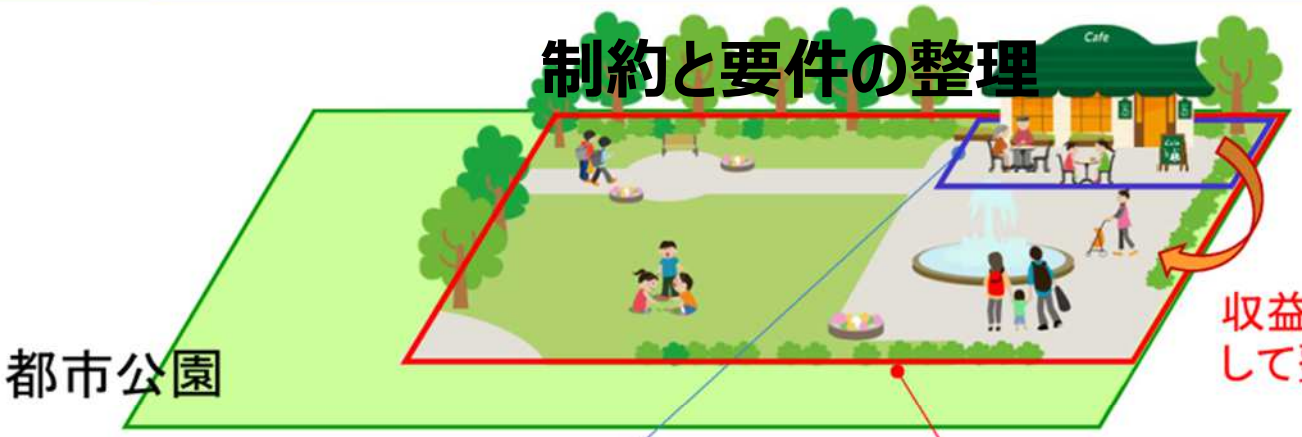
（Park Private Finance Initiative）

● 公募設置管理制度（Park-PFI）の特徴

○都市公園において飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を、公募により選定する手続き
○事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして適用される

条件	園路、広場等の公園施設（特定公園施設）の整備を一体的に行うこと

制約と要件の整理



目的物

手　段

	カフェ等の収益施設（公募対象公園施設）	広場、園路等の公共部分（特定公園施設）
従 前	民間資金	公的資金
新制度	民間資金	収益を充当 ／ 公的資金

公募設置管理制度（Park-PFI）について

国土交通省都市局
公園緑地・景観課

要件の整理

基本要件

絶対にやらなければいけないこと

- 安全性の確保

  【別紙】

- 防災機能の担保

  避難スペースの確保、防災備蓄等

- 法令･基準の遵守

  都市公園法、建築基準法、バリアフリー法

- 持続可能性（維持管理しやすい設計）

  耐久性･維持管理

  適切な植栽計画

- 環境負荷の低減

  照明や給水設備の省エネ化（LED照明、雨水利用など）

  自然環境、地域の生態系への配慮

付加要件

基本要件に加えて、価値を高める要素

- 選択要件：

  ステークホルダのニーズに応える要素

- 地域適応要件：

  地域特有の事情や住民の意向を反映した要素

- 発展要件：

  公園の質や利用価値を発展させる視点と要素

- 付加的防災要件：

- 望ましい要件：

  必須ではないが、あればいいなという要素

要件の整理

安全の確保

1. 施設・設備の安全対策
   - 遊具等の安全管理
   - 倒木・枝折れ対策
2. 防犯
   - 視線の確保（防犯対策）
3. 地形・動線の安全対策
   - 転倒・転落防止
   - 水辺の安全対策（池・川・噴水など）
4. バリアーフリー対策
   - バリアフリー法
     （高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）
5. 緊急時対応・防災対策
6. 交通・外部環境の安全対策
   - 駐車場・出入口の安全管理

防犯

防犯環境設計：CPTED 「環境設計による犯罪予防」

入りやすい
見えにくい

危険な場所のキーワード

入りにくい
見えやすい

安全な場所のキーワード

立正大学 小宮信夫教授（犯罪社会学）地域安全マップ
防犯環境設計 CPTED（Crime Prevention Through Environmental Design）

危険な公園の特徴

1.視認性の低さ

周囲の視界が遮られやすい（高い草木や建物に囲まれている）

夜間の照明が暗い

2.利用頻度が低い

利用者が少なく、人気がない時間帯が多い

利用者が特定のグループに偏っている

3.管理が行き届いていない

ゴミが散乱している、設備が壊れたままになっているなど、メンテナンスが行き届いていない

定期的な巡回や管理がされていない

4.隠れやすい空間が多い

ベンチや遊具の陰、茂みなど、人目につきにくい場所が多い

5.周囲の社会状況

周辺の地域の犯罪率が高い

周辺に繁華街や飲酒を伴う店が多い

防犯環境設計：CPTED 「環境設計による犯罪予防」

1.自然監視（Natural Surveillance）

通行人や住民の視線が届くようにし、犯罪者が目立つ環境を作る。

例：街灯の設置、見通しの良い公園、窓を通して外が見える建築デザイン。

2.自然アクセス制御（Natural Access Control）

正規の出入り口を明確にし、不正な侵入をしにくくする。

例：フェンス、植栽、歩道のデザインで人の流れを誘導。

3.領域性の強化（Territorial Reinforcement）

住民や利用者が「自分たちの空間だ」と感じるようにすることで、不審者を寄せ付けない。

例：看板、柵、敷地境界を明確にするデザイン。

4.維持管理（Maintenance）

施設や街の清掃・修繕を行い、「管理されている」という印象を与え、犯罪を抑止する。

例：壊れた街灯の早期修理、落書きの迅速な消去。

5.活動の活性化（Activity Support）

人が自然に集まり、交流が生まれる環境を作ることで、犯罪者が行動しにくくする。

例：カフェや広場の設置、地域イベントの開催。

物理的側面
犯罪の発生を抑制する具体的なデザイン

心理的側面
見られている」という意識を持たせ、犯罪を思いとどまらせる効果

市の持っている要件

1. コスト・財務要件

- **イニシャルコストの制限**：再整備に充てられる予算の上限
- **ランニングコストの制限**：維持管理費の想定額、地域住民・NPO・民間事業者の関与可能性
- **財源の確保状況**：既存予算の有無（例えば、利用料の導入可能性）

2. 公園整備の方針・計画

- **都市政策における公園の役割**：防災機能、環境保全、生物多様性、福祉・健康促進、観光資源としての活用
- **上位計画との整合性**：都市マスタープラン、緑の基本計画、公園・オープンスペース計画との関係
- **他の公園との役割分担**：自治体が所有する他の公園との比較（規模、機能、ターゲット層など）
- **現状の公園のコンセプト等の継承**

3. 整備手法

- **整備手法**：設計、施工
- **パークPFIの活用法と現状**：現事業者との関係

4. 施設・利用制限

- **ゾーニング要件**：スポーツ・遊戯・自然保護エリアなどの区分設定方針
- **施設の仕様要件**：トイレ、遊具、ベンチ、広場、駐車場の整備可否
- **制約事項**：文化財保護、環境規制、都市計画法や条例による制限（騒音、夜間利用など）

5. 運営・管理体制

- **直営又は指定管理者制度の活用可否**：民間やNPOの関与余地
- **住民参加の可能性**：ボランティアによる維持管理、コミュニティガーデン運営など
- **スマート技術の活用**：防犯カメラ、センサー、IoT活用の方針

6. PIプロセスに関する要件

- **意見の反映プロセス**：PIで出た意見の取り扱い、意思決定の流れ
- **スケジュール・フェーズの提示**：基本構想、基本計画、実施設計、施工、運用開始までの段階
- **ステークホルダの整理**：行政、住民、事業者、専門家（造園、環境、福祉など）

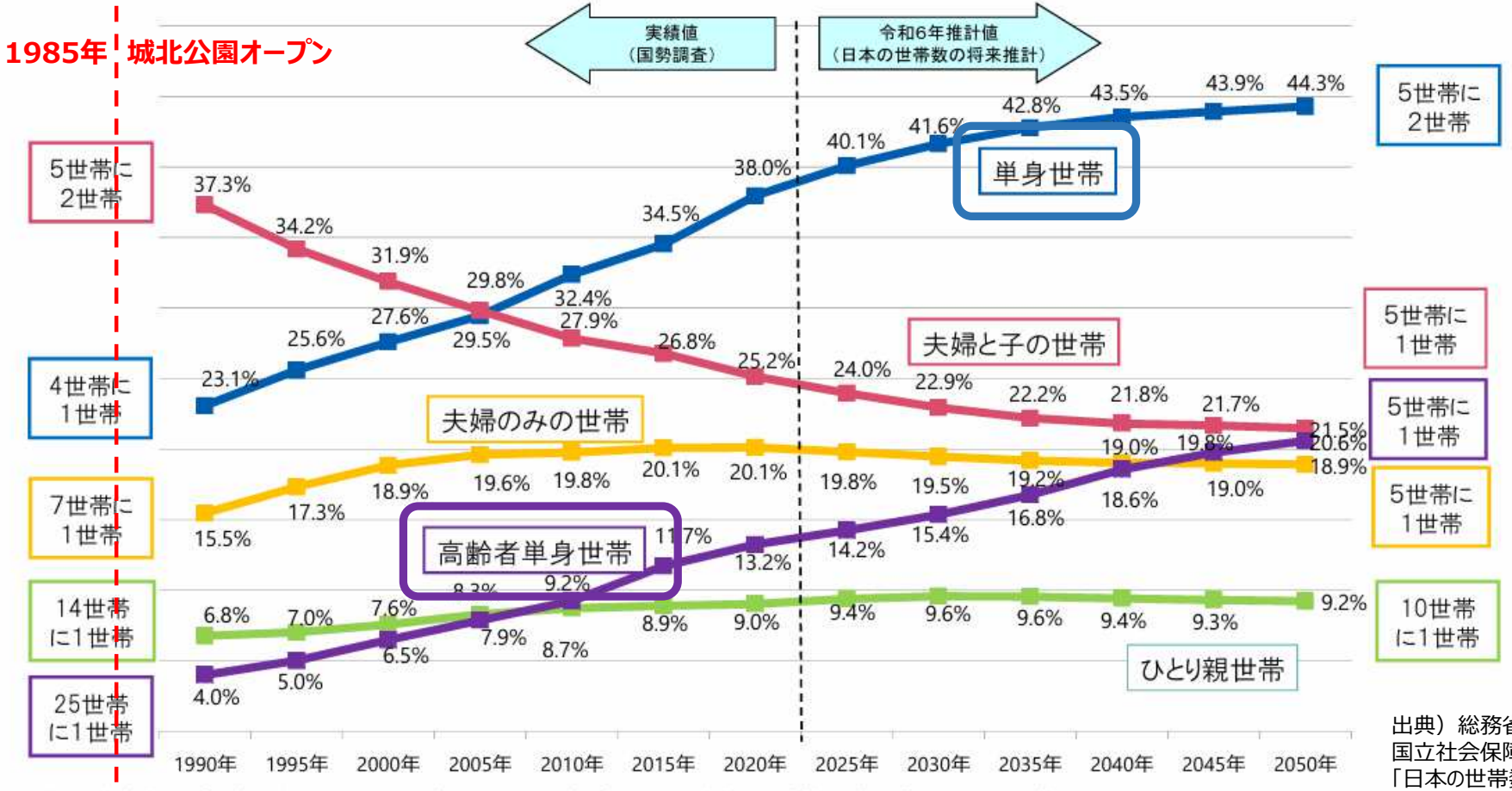
社会的課題の確認

未来に確実に起こる３つのこと

1. 人口減少（少子高齢化、単身世帯の増加）
2. 気温の上昇（温室効果ガス、海面水温の上昇）
3. 技術の進化（情報技術やAI、バイオテクノロジー）

世帯構成の推移と見通し

○単身世帯、高齢者単身世帯(※1)ともに、今後とも増加が予想されている。
単身世帯は、2050年で44．3%に達する見込み。(全世帯数約5,570万世帯(2020年))



出典）総務省統計局「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所
「日本の世帯数の将来推計
（全国推計）（令和6年推計）」

(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(令和6年推計)」
(※1)世帯主が65歳以上の単身世帯を、高齢者単身世帯とする。
(※2)全世帯数に対する高齢者単身世帯の割合はグラフのとおりだが、世帯主年齢65歳以上世帯に対する割合は、35.2%(2020年)から45.1%(2050年)へと上昇。
(※3)子については、年齢にかかわらず、世帯主との続き柄が「子」である者を指す。

孤独と孤立の問題

2018年1月：英国第2次メイ内閣が孤独問題担当大臣を設置

英国政府の主張によると、孤独の健康への悪影響は、毎日15本のタバコを吸うことに匹敵するほど深刻である

WHOは「孤独を差し迫った健康上の脅威と位置づけ、社会的つながりを優先事項として促進すると主張

2023年5月：米国公衆衛生局が、「私たちの孤独と孤立の蔓延」で、孤独の健康への悪影響は、1日15本の喫煙に相当すると主張

2021年2月　内閣官房内に、孤独・孤立対策担当室、孤独・孤立対策担当大臣を設置

公園づくり世界の潮流

公園づくり世界の潮流

プレイスメイキング（Placemaking）

公共空間や公園をより使いやすく、魅力的で活気ある場所にするプロセス。コミュニティの意見を取り入れながら進めることが特徴です。

サードプレイス・デザイン（Third Place Design）

公園を自宅（ファーストプレイス）や職場（セカンドプレイス）以外の「サードプレイス」として再設計し、人々が交流しやすい空間にする動向。

パーク・アクティベーション（Park Activation）

公園の利用価値を最大化するために、施設の改修、イベント開催、地域参加型プログラムなどを組み合わせた取り組みを指します。

アーバン・グリーン・リニューアル（Urban Green Renewal）

都市部の緑地を再整備し、周辺地域の文化、環境、経済の発展を目指す動き。この表現は「持続可能な開発」の視点も含みます。

公園づくり世界の潮流

プレイスメイキング（Placemaking）

パブリックライフ＝都市生活を豊かにするための都市デザインの手法

ブライアントパークについて考えてみる

世界で最も成功している公園のひとつ

整備手法： BID（Business Improvement District）を活用

広さ： 170m×140m（2.4ha、市立図書館を含むと3.9ha）

所有者： ニューヨーク市

来訪者： 1,200万人/年

公園が変わる！街が変わる！
第8回 米ブライアント・パークで成功した公園活性化とBIDによる運営のポイントから引用

公園の課題と運営の移管

従前：　地下鉄のトンネルを掘った残土を積上げ1.2mほど高い敷地
周辺から見えない生垣の設置
狭い公園の入り口で中の雰囲気がわからない
ニューヨーク市の財政破綻で維持管理がされなくなった
麻薬の取引がされるような治安の悪い場所となった
結果、人々が近寄らないイメージの悪い場所になった
NPOに運営を移管

収入：　BID賦課金（13%）
イベント使用料
キオスクのテナント料
企業のスポンサーシップ

公園が変わる！街が変わる！
第8回 米ブライアント・パークで成功した公園活性化とBIDによる運営のポイントから引用

公園活性化のための10のルール

1. 清潔さ（Sanitation）30人の清掃担当者を直接雇用
2. 安全（Security）治安悪化の芽を摘む
3. 園芸（Horticulture）他の公園の緑の管理も
4. 照明（Lighting）夜でも新聞が読める公園
5. 可動椅子（Movable Chairs）“座れる場所”をつくる
6. 食事（Food）滞留時間を延ばす
7. トイレ（Public Bathroom）一流ホテルレベルの清潔さ
8. アメニティ施設（Amenities）ボードゲームから携帯充電施設まで
9. イベント（Program & Events）「着ぐるみ不可」でブランド管理
10. デザイン（Design）　ゴミ箱も美しく

公園が変わる！街が変わる！
第8回 米ブライアント・パークで成功した公園活性化とBIDによる運営のポイントから引用

ニューヨーク市の長期計画「PlaNYC」

ニューヨーク市が持続可能な都市を目指して策定した総合的な戦略計画。2007年に発表され、その後何度か改訂が行われている。主に環境、インフラ、気候変動対策、交通、住宅、公園など幅広い分野をカバーし、都市の成長と持続可能性を両立させることを目的としている。

公園と公共スペース（Parks and Public Space）

公共の範囲を再考する

公園を利用できようにするということは、単に住居の近くに公園を整備するということではない。
我々は街路、歩道、他の公共スペースそのものを再考する。歩行者・自転車専用道路、広場、街路樹、その他の手段により、街のいたる所を公園のようにする。これにより木陰と彩りが創出され、空気は清浄になり、不動産価値は向上する。

公園と市民の幸福・健康・福祉の関係

1. 身体的健康の向上
2. 精神的健康の向上
3. 社会的つながりの強化
4. 子どもの発育への貢献
5. 防災・環境面でのメリット